



V222x シリーズエンコーダー ハードウェアマニュアル

モデル：V2221／V2224

2022/11/30

目次

注意事項..... 4

安全上のご注意	5
---------------	---

概要..... 6

モデル一覧.....	6
パッケージ内容	7
各部の名称.....	8
V2221	8
V2224	10
機器の取り付け	12

接続例..... 13

V2221 の接続.....	13
V2224 の接続.....	13

接続方法..... 14

アナログカメラの接続.....	14
ビデオ出力機器の接続 (V2221 のみ)	14
電源アダプター (別売り) の接続	15
デジタル入力／出力機器 (別売り) の接続.....	17
DI/DO 機器を V2221 に接続する方法.....	17
DI/DO 機器を V2224 に接続する方法.....	18
DI/DO の接続仕様	19
音声機器 (別売り) の接続.....	21
シリアル機器 (別売り) の接続	22

その他の付属品 24

メモリーカードの取り付け／取り外し方法.....	24
メモリーカードの取り付け方法.....	24
メモリーカードの取り外し方法.....	24

エンコーダーへのアクセス 25

IP アドレスの設定.....	25
エンコーダーへのアクセス.....	30

注意事項

この商品は日本国内向け専用です。

取扱説明書をよくお読みください

本製品をご使用になる前に、必ず安全上のご注意と操作手順すべてに目を通してください。

すべての警告に従ってください

本製品に関する警告および取扱説明書に記載されている警告すべてに従う必要があります。安全指示に従わなければ、人々を直接の危険にさらし、システムまたはその他の機器に損傷を招く恐れがあります。

整備、修理

本製品をお客様ご自身で整備、修理しないでください。カバーを開けたり外したりすると、危険電圧などの危険要素にさらされる可能性があります。すべての整備は資格のあるサービス担当者にお任せください。

商標

本書で使用されるすべての名称は各社の登録商標です。

責任

本書は細心の注意を払って作成しています。誤記や脱落がありましたら、ご購入いただいた販売店までお知らせください。製品の改良などにより、記載されている内容などが実際の製品と異なる場合があります。また、事前の通知なく製品およびマニュアルに対して変更を加える権利を留保しています。

安全上のご注意

お手入れ

お手入れの前に、本製品の電源を切ってください。

アタッチメント（ネジとアンカー）

危険を引き起こす可能性があるため、本製品の製造元が推奨していないアタッチメント（ネジとアンカー）を使用しないでください。

付属品について

付属品として同梱されている部材以外は使用しないでください。ネジやアンカーは、取り付け面の構造や材質に合わせて適切なものを適宜ご用意いただき、十分な強度を確保してください。

本製品は屋内専用です

屋外での使用はできません。

点検、修理

本製品をお客様ご自身で点検または修理しないでください。すべての点検と修理は資格のあるサービス担当者にお任せください。

整備を要する損傷

次の状況では直ちに本製品を電源から外し、資格のあるサービス担当者に整備を依頼してください。

- 1) 電源コードまたはプラグが損傷している場合
- 2) 本製品に液体をこぼしたり、物を落とした場合
- 3) 本製品の内部部品が雨または水に直接さらされている場合
- 4) 本書の操作手順に従っても本製品が正常に動作しない場合。この場合は、取扱説明書に記載されている操作部だけを調整してください。他の操作部を誤って調整すると、損傷が生じる可能性があり、多くの場合、本製品を通常動作に復帰させるために資格のある技術者による広範囲な作業が必要になります。



安全点検

本製品の整備または修理が完了したら、本製品が適切な動作条件にあるかどうかを判断するためにサービス技術者に安全点検の実施を依頼してください。

概要

モデル一覧

本ハードウェアマニュアルには、以下のモデルを掲載しています。

V2221		1 チャンネル 960H/D1 H.264 ビデオエンコーダー
V2224		4 チャンネル 960H/D1 H.264 拡張温度範囲対応ビデオエンコーダー

どちらのモデルも設置方法はほぼ同じなので、両モデルの説明を本書に記載しています。

エンコーダーハードウェアマニュアル

パッケージ内容

ビデオエンコーダー	ネジセット	電源端子台
		
音声対応端子台 (V2221 用)	音声対応端子台 (V2224 用)	シリアル通信対応端子台
		
デジタル入力/ 出力対応端子台 (V2221 用)	デジタル入力/ 出力対応端子台 (V2224 用)	レコーダー登録手順書
		

メモ：本機および同梱品の外観は変更されることがあります。

各部の名称

V2221



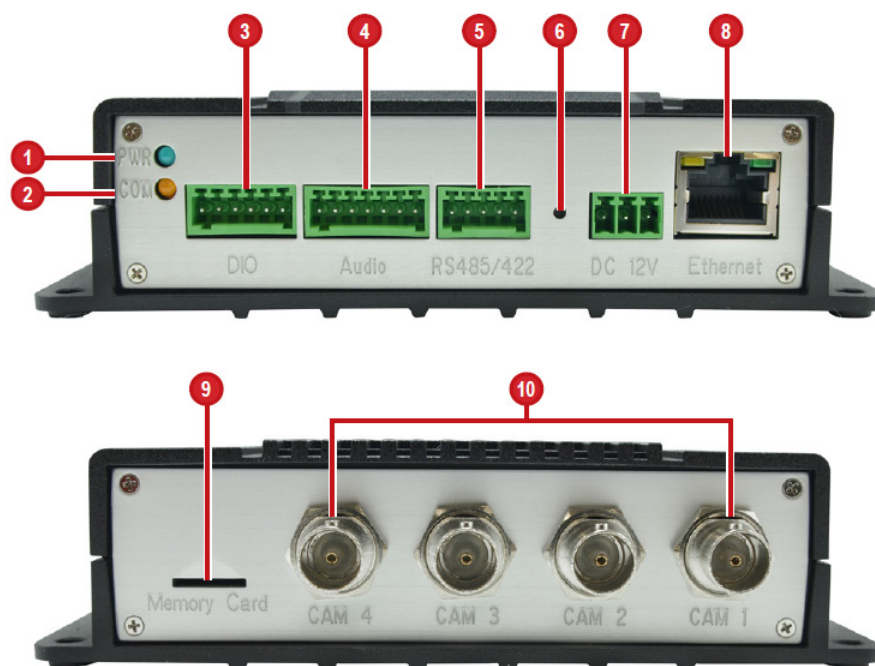
項目	説明
1	電源 LED 本機の電源を入れると点灯します。
2	シリアルポート 動作 LED 接続したシリアル機器とエンコーダーが通信しているときに点滅します。
3	ビデオ入力動作 LED アナログカメラをエンコーダーに接続すると点灯します。
4	デジタル入力/ 出力コネクタ デジタル入力/出力機器（アラームトリガー、非常ボタンなど）に接続します。デジタル入力（DI）機器およびデジタル出力（DO）機器は、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などの用途で使用されます。DI/DO 機器をエンコーダーに接続する方法については、17 ページの「 DI/DO 機器を V2221 に接続する方法 」を参照してください。
5	音声入力/出力 コネクタ アンプを接続したマイク、スピーカーなどのオーディオ入力および出力機器に接続します。詳細については、21 ページの「 音声機器（別売り）の接続 」を参照してください。 メモ ：アンプが接続されたマイクを接続してください。アンプが接続されていないマイクを接続すると、小さな音で録音され、聞き取れなくなります。

エンコーダーハードウェアマニュアル

6	シリアルポートコネクタ	RS-485/RS-422 通信用のアナログ機器のシリアルポートに接続して、パン/チルト、ズームなどのエンコーダー機能を調整します。詳細については、22ページの「 シリアル機器（別売り）の接続 」を参照してください。
7	リセットボタン	工場出荷時の設定に戻すときに使用します（管理者のパスワードなど）。ペンなど先のとがったものを使用して、RESET ボタンを 5 秒間または電源 LED が点灯するまで押したままにします。
8	DC 12 V 電源コネクタ	エンコーダーが PoE (Power over Ethernet) 非対応スイッチに接続されている場合は、このコネクタを使用してエンコーダーを外部の電源アダプターに接続します。詳細については、15ページの「 電源アダプター（別売り）の接続 」を参照してください。
9	PoE 給電対応 Ethernet ポート	標準の Ethernet ケーブルを使用してネットワークに接続します。 IEEE802.3af 準拠、クラス 3 機器
10	メモリーカードスロット	ローカルでの記録目的で、このスロットにメモリーカード（別売り）を差し込みます。詳細については、24ページの「 メモリーカードの取り付け／取り外し方法 」を参照してください。 メモ ：microSDHC カードおよび microSDXC カードのみを使用できます。 microSDHC メモリーカード：8GB、16GB、32GB* microSDXC メモリーカード：64GB*、128GB* * i-PRO 機器専用microSDHC／microSDXC メモリーカードの使用を推奨します。
11	ビデオ出力コネクタ	BNC 接続を通じてビデオ監視を実行する場合に、外部モニターに接続します。詳細については、14ページの「 ビデオ出力機器の接続 (V2221 のみ) 」を参照してください。 メモ ：BNC コネクタ付きのビデオケーブルはパッケージに同梱されていません。
12	ビデオ入力コネクタ	BNC 接続を利用してアナログカメラを接続します。詳細については、14ページの「 アナログカメラの接続 」を参照してください。 メモ ：BNC コネクタ付きのビデオケーブルはパッケージに同梱されていません。 推奨同軸ケーブル：5C-2V 最大 100m

エンコーダーハードウェアマニュアル

V2224



項目	説明
1 電源 LED	本機の電源を入れると点灯します。
2 シリアルポート動作 LED	シリアル機器をエンコーダーに接続すると点灯します。
3 デジタル入力／出力コネクタ	デジタル入力／出力機器（アラームトリガー、非常ボタンなど）に接続します。デジタル入力（DI）機器およびデジタル出力（DO）機器は、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などの用途で使用されます。DI/DO 機器をエンコーダーに接続する方法については、18 ページの「 DI/DO 機器を V2224 に接続する方法 」を参照してください。
4 音声入力／出力コネクタ	アンプを接続したマイク、スピーカーなどのオーディオ入力および出力機器に接続します。詳細については、21 ページの「 音声機器（別売り）の接続 」を参照してください。 ×モ ：アンプが接続されたマイクを接続してください。アンプが接続されていないマイクを接続すると、小さな音で録音され、聞き取れなくなります。

エンコーダーハードウェアマニュアル

5	シリアルポートコネクタ	RS-485/RS-422 通信用のアナログ機器のシリアルポートに接続して、パン/チルト、ズームなどのエンコーダー機能を調整します。詳細については、22 ページの「 シリアル機器（別売り）の接続 」を参照してください。
6	リセットボタン	工場出荷時の設定に戻すときに使用します（管理者のパスワードなど）。ペンなど先のとがったものを使用して、RESET ボタンを 5 秒間または電源 LED が点灯するまで押したままにします。
7	DC 12 V 電源コネクタ	エンコーダーが PoE (Power over Ethernet) 非対応スイッチに接続されている場合は、このコネクタを使用してエンコーダーを外部の電源アダプターに接続します。詳細については、15 ページの「 電源アダプター（別売り）の接続 」を参照してください。
8	PoE 給電対応 Ethernet ポート	標準の Ethernet ケーブルを使用してネットワークに接続します。 IEEE802.3af 準拠、クラス 3 機器
9	メモリーカードスロット	ローカルでの記録目的で、このスロットにメモリーカード（別売り）を差し込みます。詳細については、24 ページの「 メモリーカードの取り付け／取り外し方法 」を参照してください。 メモ ：microSDHC カードおよび microSDXC カードのみを使用できます。 microSDHC メモリーカード：8GB、16GB、32GB* microSDXC メモリーカード：64GB*、128GB* * i-PRO 機器専用microSDHC／microSDXC メモリーカードの使用を推奨します。
10	ビデオ入力コネクタ（1~4）	BNC 接続を利用してアナログカメラを接続します。この番号はカメラのチャンネル番号を表します。詳細については、14 ページの「 アナログカメラの接続 」を参照してください。 メモ ：BNC コネクタ付きのビデオケーブルはパッケージに同梱されていません。 推奨同軸ケーブル：5C-2V 最大 100m

機器の取り付け

エンコーダーは、壁などの平らな面に直接取り付けることができます。
エンコーダーの天地を逆にして設置することも可能です。本機の周囲に十分な換気用スペースを確保してください。

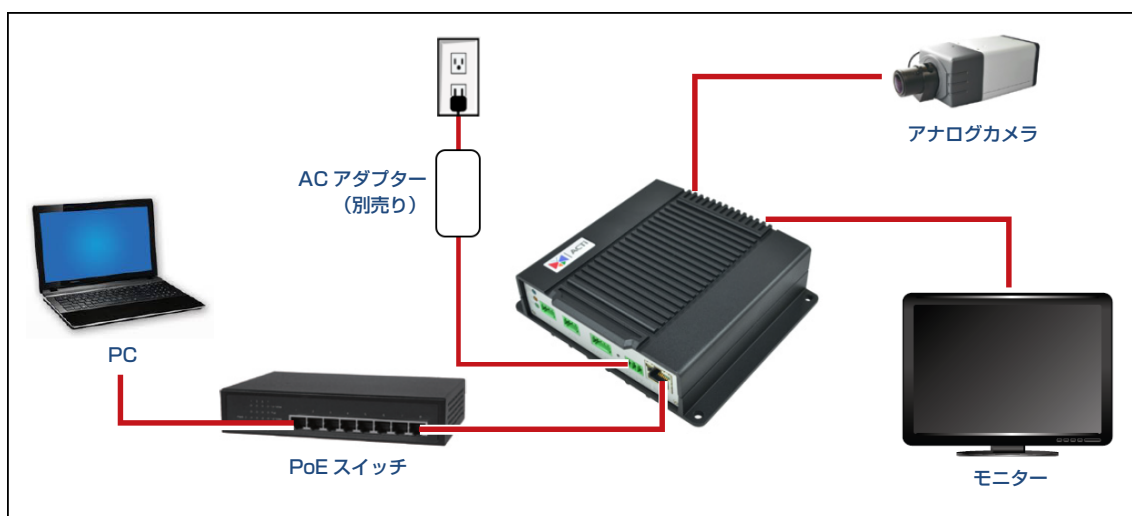
付属のネジ 4 本で機器を固定します。



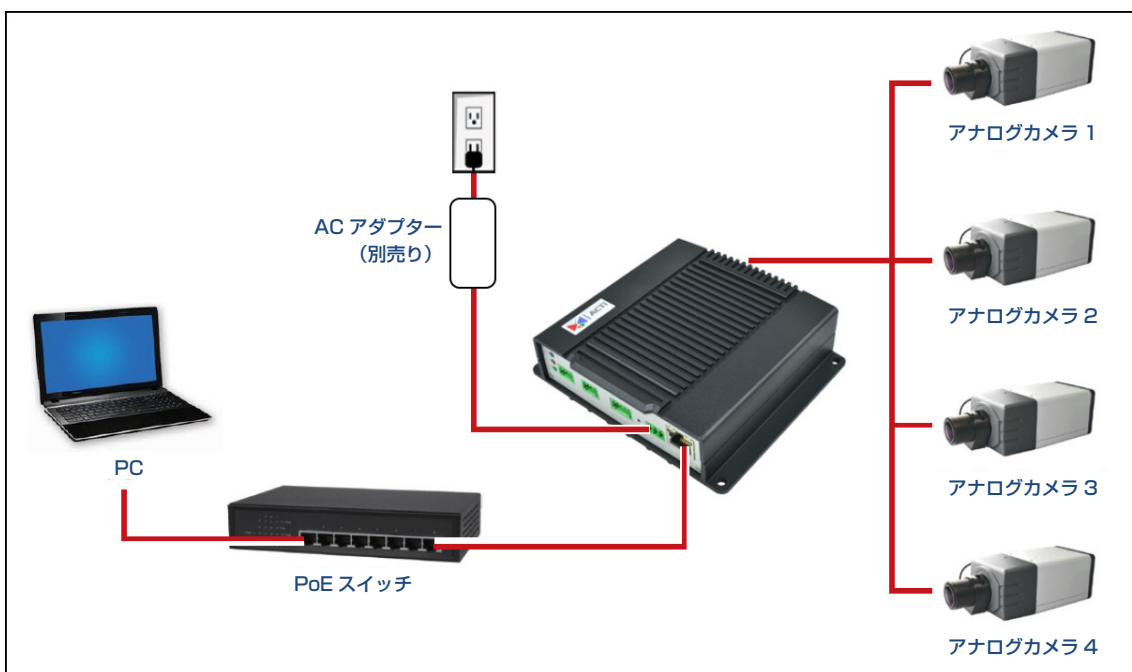
接続例

下図に、ローカルネットワーク内での基本的な接続の例を示します。

V2221 の接続



V2224 の接続



接続方法

このセクションでは、アナログカメラとビデオ出力機器を接続する手順、エンコーダーに接続可能な外部機器を準備する手順を説明します。エンコーダーは、DC12V 電源入力、デジタル入力／出力（DI/DO）、音声入力／出力の機器に加え、付属の端子台を使用したパン/チルト/ズーム用プロトコル（Pelco-D、Pelco-P V2、Dynacolor）によるシリアル通信をサポートしています（Panasonic プロトコルには非対応）。必要に応じて、これらの入出力または通信に対応した機器を接続できます。

アナログカメラの接続

BNC コネクタ付きのビデオケーブルを使用してアナログカメラをエンコーダーの**ビデオ入力**ポートに接続します。



ビデオ出力機器の接続（V2221 のみ）

エンコーダーはアナログカメラの信号をデジタルに変換し、ネットワーク経由で送出するため、ネットワーク内の任意の PC から監視とビデオの録画を実行できます。したがって、ユーザーの用途でアナログカメラのライブ画像をモニターに表示する必要がなければ、外部モニターの使用は必須ではありません。外部モニターが必要になるのは、たとえば、ネットワーク経由でイベントをリモート録画しながら日常の活動をモニターで監視する担当者がある小規模店舗の場合などです。

BNC コネクタ付きのビデオケーブルを使用してコンポジット信号端子がある外部モニターをエンコーダーの**ビデオ出力**ポートに接続します。

電源アダプター（別売り）の接続

PoE 非対応スイッチを使用する場合は、電源アダプターを購入することでエンコーダーを電源コンセントに直接接続できます。電源アダプターは、使用する前に付属の端子台に接続する必要があります。

電源アダプターの要件

出力：DC 12V、1.5A

二次側消費電力：18W

以降では、ACTi 社製電源アダプターPPBX-001（別売り）を例にして説明します。

以下の手順で接続します。

1. 電源端子台の 12V ピンと GND ピンのねじを緩めます。

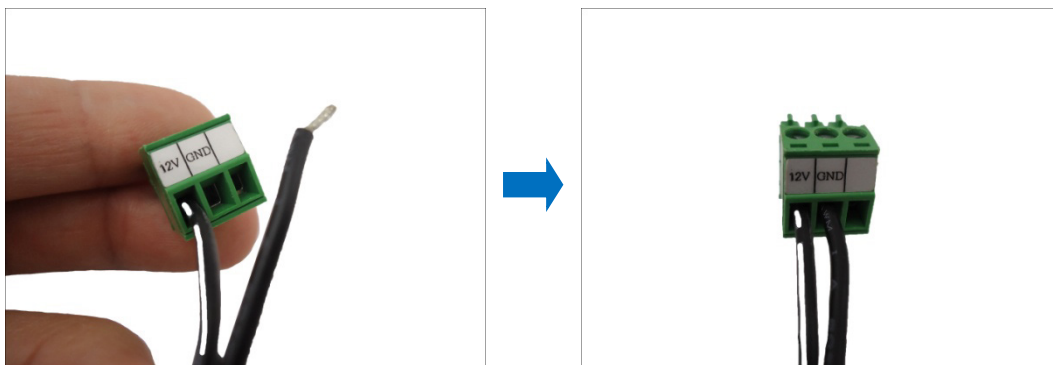


2. 標準の電源アダプターケーブルは、2種類のワイヤーに分かれます。



エンコーダーハードウェアマニュアル

3. 白いストライプのあるワイヤーを **12V** ピンに接続し、もう一方を **GND** ピンに接続します。



4. **12V** ピンと **GND** ピンのねじを締め付けて、ワイヤー接続を固定します。



5. 準備した電源アダプターを後で接続できるように設定します。以下の図は、電源アダプターを端子台に接続した例です。



メモ：電源アダプターはパッケージに同梱されていません。

デジタル入力／出力機器（別売り）の接続

監視のニーズに応じて、デジタル入力／出力機器をエンコーダーに接続できます。

デジタル入力 (DI) 機器は、カメラサイトまたはエンコーダーサイトでの動作等をエンコーダーに通知する場合に使用できます。DI はイベントのトリガーとなります。たとえば、「非常ボタン」をエンコーダーに接続した場合、非常ボタンを押すとエンコーダーを通じてアラーム信号が送信されます。他の一般的な DI 機器の用途は緊急停止ボタン、煙探知機、受動型赤外線センサーなどです。

デジタル出力 (DO) 機器は、エンコーダー内でのイベント（例：メモリーカードの取り外し）発生時にエンコーダーによって作動する外部機器、あるいは特にカメラサイトでの動きによって作動する外部機器です。たとえば、「アラームホーン」をエンコーダーに接続した場合、カメラ側で侵入者の検出などのイベントが発生するとアラームが鳴ります。他の一般的な DO 機器の用途は、動体検知ライト、通電柵、磁気ドアロックなどです。

DI/DO 機器を V2221 に接続する方法

1. オレンジ色のタブを指で押したまま、ピンスロットにワイヤーを通します。オレンジ色のタブから指を離すとワイヤーが固定されます。
ワイヤーの径が細いとピンスロットで確実にワイヤーが固定できません。固定されたワイヤーが容易に抜けないことを十分ご確認ください。



2. デジタル入力／出力機器 (DI/DO) を接続するには、以下のピンの組み合わせのいずれかにピンをマッピングします。

機器	ピンラベル	マッピングの方法
デジタル出力 (DO)	DIO	出力機器のワイヤーを DIO と 12V に接続します。 1 つの出力端子で引き込める負荷の電圧および電流はそれぞれ DC 24V、50mA までです。
	12V	
デジタル入力 (DI)	DI	入力機器のワイヤーを DI と GND に接続します。
	GND	

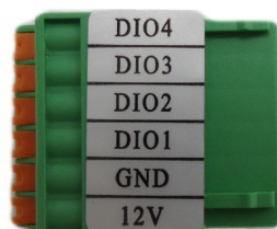
3. 端子台をエンコーダーの DIO コネクタに接続します。

エンコーダーハードウェアマニュアル

DI/DO 機器を V2224 に接続する方法

V2224 のデジタル入力／出力コネクタを使用して、デジタル入力ピンと出力ピンを構成できます。したがって、デジタル入力機器か出力機器のいずれかを特定の DIO ピンに接続できます。接続後は、Web Configurator を利用してピンを定義する必要があります（詳細については、「エンコーダーファームウェアマニュアル」を参照）。

1. Web Configurator で DIO ピンを構成します（詳細については、「エンコーダーファームウェアマニュアル」を参照）。
2. オレンジ色のタブを押したままピンスロットにワイヤーを通した後、オレンジ色のタブを放してワイヤーを固定します。
ワイヤーの径が細いとピンスロットで確実にワイヤーが固定できません。固定されたワイヤーが容易に抜けないことを十分ご確認ください。



3. デジタル入力／出力機器（DI/DO）を接続するには、以下のピンの組み合わせのいずれかにピンをマッピングします。

機器	ピンラベル	マッピングの方法
デジタル出力 (DO)	DIO (ポート番号)	出力機器のワイヤーを DIO と 12V に接続します。 1 つの出力端子で引き込める負荷の電圧および電流はそれぞれ DC 24V、50mA までです。
	12V	
デジタル入力 (DI)	DIO (ポート番号)	入力機器のワイヤーを DI と GND に接続します。
	GND	

メモ：すべてのデジタル出力機器について、ワイヤーを **12V** ピンにもマッピングする必要があります。デジタル出力機器の電源が異なる場合は、機器の電圧に合わせて別途用意した電源をマッピングします。すべてのデジタル入力機器の場合と同様に、ワイヤーを **GND** ピンにもマッピングする必要があります。**GND** ピンと **12V** ピンは複数の機器にマッピングできます。

4. 端子台をエンコーダーの DIO コネクタに接続します。

エンコーダーハードウェアマニュアル

DI/DO の接続仕様

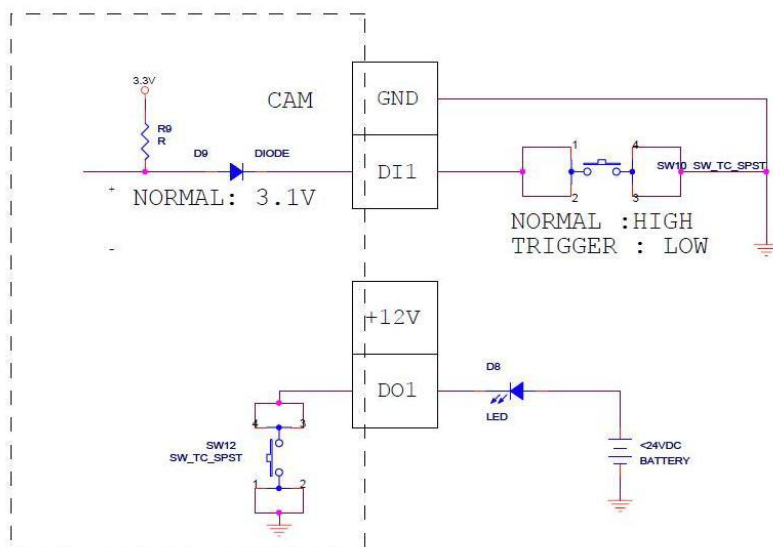
以下の表に、DI/DO の接続仕様を示します。

機器			
DI	接続設計		TTL 互換の論理レベル
	電圧	トリガーへ (低)	論理レベル 0 : 0V~0.4V
		通常 (高)	論理レベル 1 : 3.1V~30V
電流		10mA~100mA	
DO	接続設計		トランジスタ (オープンコレクタ)
	電圧および電流		< DC 24V、< 50mA

一般的な接続

上記の仕様に基づき、DI 機器の電圧が 0V~30V の場合または DO 機器の電圧が 12V 未満 (50mA 未満) の場合は、エンコーダーが内部電力をこれらの機器に供給できるので、DI/DO 機器を外部電源に接続する必要はありません。

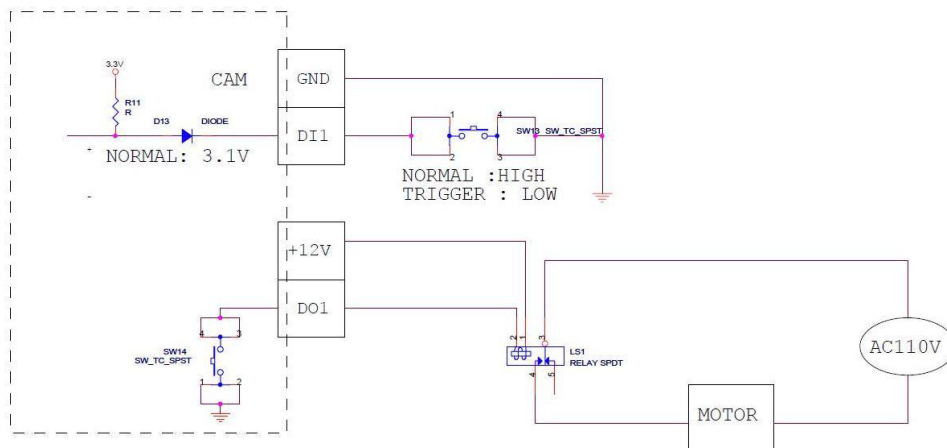
GND ピンと **DI** ピンを使用して DI 機器を接続し、**DIO** ピンと **12V** ピンを使用して DO 機器を接続します。以下の配線図をご覧ください。



エンコーダーハードウェアマニュアル

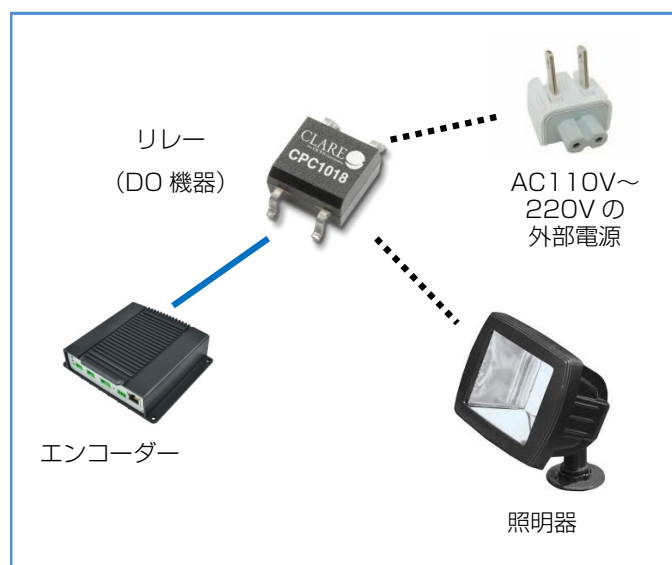
高電圧 DO 機器の接続

エンコーダーは 12V の電力を供給しますが、一部の高電圧 DO 機器（天井灯や、ゲートの開閉を行うモーターなど）には十分ではない可能性があります。この場合は、外部リレーを接続する必要があります。以下の配線図をご覧ください。



適切なリレーを選ぶときは、リレーの仕様を参照し、上記の設計に合致していることを確認してください。トリガー回路の電圧は DC12V 前後でなければならず、スイッチ制御回路の電圧は外部電力（例：AC110V または AC220V）と一致する必要があります。

下図は、リレーと高電圧 DO 機器との接続例を表現したものです。



メモ：DI/DO 接続の詳細については、ナレッジベースの記事「All about Digital Input and Digital Output」を参照してください。下記のリンク先でダウンロードできます。

<https://download.acti.com?id=516>

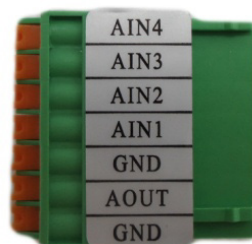
音声機器（別売り）の接続

音声入力／出力機器（アクティブマイクやスピーカーなど）は、付属の端子台を使用してエンコーダーに接続できます。

オレンジ色のタブを指で押したまま、ピンスロットにワイヤーを通します。オレンジ色のタブから指を離すとワイヤーが固定されます。



V2221 用端子台



V2224 用端子台

音声機器を接続するには、以下のピンの組み合わせのいずれかにピンをマッピングします。

機器	ピンラベル	マッピングの方法
音声出力	AOUT	音声出力機器のワイヤーを AOUT と GND に接続します。
	GND	
音声入力	AIN	音声入力機器のワイヤーを AIN と GND に接続します。V2224 モデルの場合は、 AIN の後の番号が音声入力機器に対応するカメラチャンネルです（例： AIN1 ）。
	GND	

メモ：

- **GND** ピンは複数の音声機器にマッピングできます。
- 音声入力接続の詳細については、弊社ウェブサイトのナレッジベースの記事「How to Use Audio-in of ACTi Cameras」を参照してください。下記のリンク先でダウンロードできます。

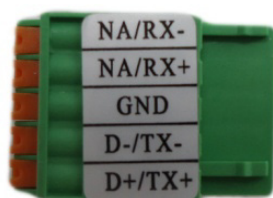
<https://download.acti.com?id=534>

シリアル機器（別売り）の接続

本エンコーダーは、パン/チルト（PT）機能または PT スキャナー（パン/チルトヘッド）を搭載したカメラに、シリアルポートコネクタを使用して接続できます。これにより、エンコーダーはパン/チルト/ズーム用プロトコル（Pelco-D、Pelco-P V2、Dynacolor）を使用したパンおよびチルト制御が可能になります（Panasonic プロトコルには非対応）。ほとんどの PT 機器は RS-485 接続または RS-422 接続（どちらもエンコーダーでサポート）を介してプロトコルコマンドを受け取ります。

PT 機器で利用可能な接続を確認し、以下の手順に従って PT 機器をエンコーダーに接続します。

- 以下のいずれかの表に従い、付属の端子台を使用して PT 機器からのワイヤーをエンコーダーにマッピングします。



RS-485 接続の場合

ピンラベル	エンコーダーピン	PT デバイスピン
RX-		-
RX+		-
GND	GROUND PIN	
TX- / D-	TX -	DATA -
TX+ / D+	TX +	DATA +

RS-422 接続の場合

ピンラベル	エンコーダーピン	PT デバイスピン
Rx-	RX -	TX -
RX+	RX +	TX +
GND	GROUND PIN	
TX -	TX -	RX -
TX +	TX +	RX +

メモ: PT スキャナーのピンのラベルは、PT スキャナーが購入された地域または国によって異なる可能性があります。たとえば、一部の機器には、「TX+」、「RX+」、「A」、「485+」などのラベルの付いた RS-485 の **DATA+**ピンがあります。スキャナーのドキュメントを参照するか、メーカーに問い合わせることで対応するピンラベルを確認し、適切な配線接続を行ってください。

注意: 配線を誤ると、接続機器が損傷することがあります。

エンコーダーハードウェアマニュアル

免責事項: 誤配線によって生じるいかなる損害についても、弊社は一切の責任を負いません。

2. アース線を **GND** 端子ピンに接続すれば、接続は完了です。

PT スキャナーの接続の詳細については、弊社ウェブサイトのナレッジベースの記事「Pan and Tilt Scanner for ACTi Zoom Cameras」を参照してください。下記のリンク先でダウンロードできます。

<https://download.acti.com?id=556>

その他の付属品

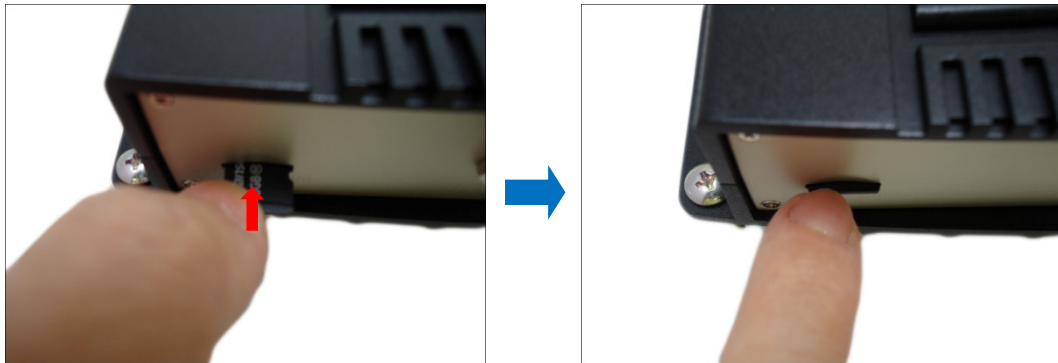
メモリーカードの取り付け／取り外し方法

本機では、録画した映像やスナップショットをメモリーカードに保存できます。

メモ：microSDHC カードと microSDXC カードを使用できます。

メモリーカードの取り付け方法

金属の接点をエンコーダーに向け、メモリーカードをカードスロットに差し込みます。「カチッ」と音がするまでカードを押し込みます。



メモリーカードの取り外し方法

カードを取り外す必要がある場合は、必ず最初にエンコーダーの Web Configurator にアクセスして、カードを安全に「アンマウント」してください（詳細については、エンコーダーファームウェアマニュアルを参照）。ファームウェアからアンマウントした後、カードを押ししてスロットから取り出します。

エンコーダーへのアクセス

IP アドレスの設定

PC からエンコーダーに通信できるようにするには、エンコーダーと PC の両方を同じセグメントのネットワークに接続する必要があります。エンコーダーと PC の IP アドレスの大部分を共通にし、最後の数字だけを異なるものにします。LAN 内の IP アドレスの管理には、DHCP サーバーを使用する方法と手動による方法の 2 つがあります。

DHCP サーバーを使用した IP アドレスの割り当て：

DHCP サーバーが稼働しているネットワーク内にコンピューターとエンコーダーを接続している場合、IP アドレスを設定する必要はありません。エンコーダーと PC の両方が、DHCP サーバーに固有の IP アドレスを自動的に要求します。このような場合、エンコーダーは直ちに PC からのアクセスが可能になります。ただし、ユーザーはエンコーダーの IP アドレスをまだ把握していない可能性があります。ウェブブラウザを使用してエンコーダーにアクセスできるようにするには、エンコーダーの IP アドレスを把握しておく必要があります。

ネットワーク内でエンコーダーを最も速く検出する方法は、Windows システムに搭載されている最もシンプルなネットワーク検索を使用することです。本エンコーダーでサポートする UPnP 機能により、[ネットワーク] アイコンをクリックするだけで、LAN 内のすべてのエンコーダーが Windows によって検出されます。

以下の例では、ネットワークに接続したエンコーダーモデルが正常に検出されています。



エンコーダーハードウェアマニュアル

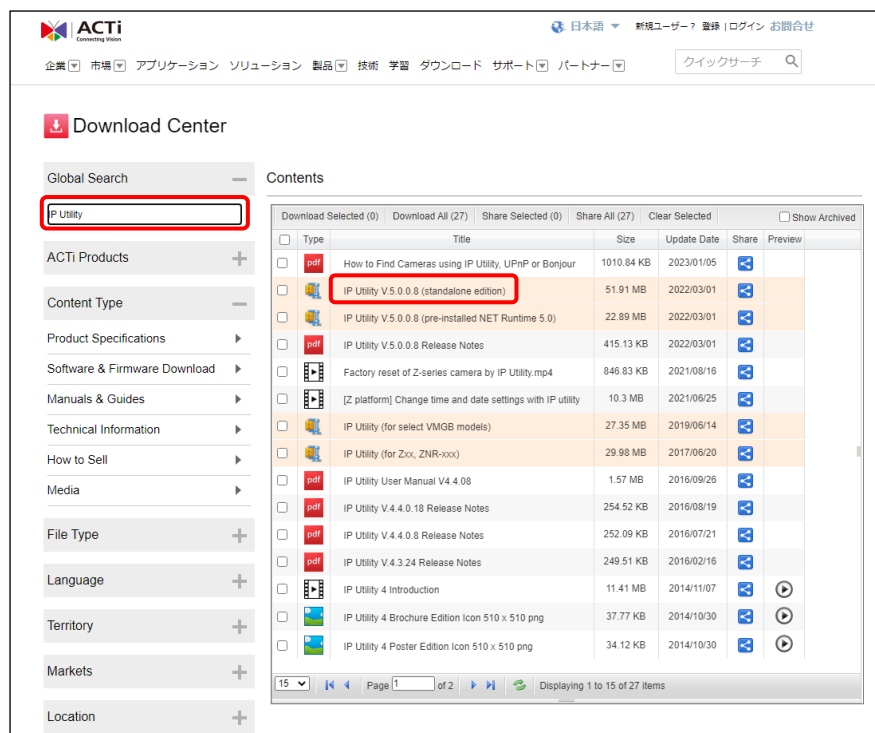
表示されているモデルのエンコーダーをダブルクリックすると、アドレスバーに対象のエンコーダーの IP アドレスが入力された状態で PC のデフォルトブラウザが自動的に起動します。

弊社のエンコーダーを定期的に操作する場合は、IP Utility を使用することで、ネットワーク上のエンコーダーを見つけやすくなります。IP Utility は、エンコーダーの発見だけでなく、多くの有用な情報（IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、ファームウェアバージョンなど）の一覧表示を実現する軽快なソフトウェアツールであり、複数の機器を同時にすばやく設定できます。

IP Utility の入手方法

IP Utility は ACTi 社のウェブサイトでダウンロードできます。下記の手順に従います。

1. Web ブラウザーで、ACTi Download Center にアクセスします
URL: <https://www.acti.com/downloadcenter/>
2. 「IP Utility」を検索します。
3. 検索結果に表示される「IP Utility <バージョン番号> (standalone edition)」をクリックして、インストールファイルをダウンロードします。

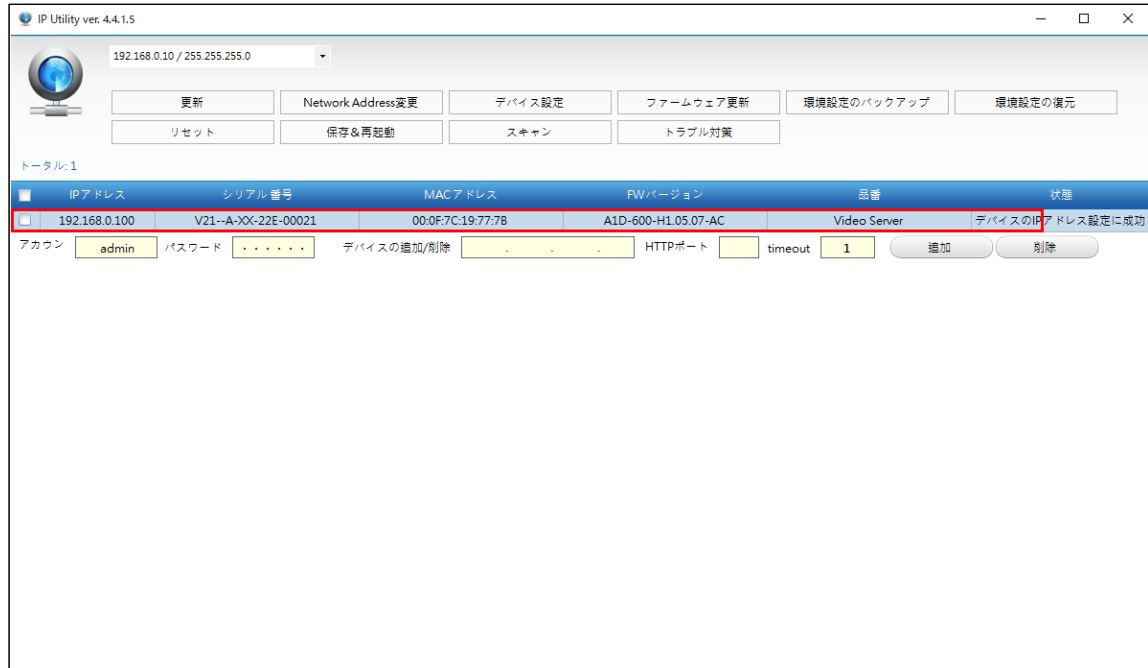


4. ダウンロードしたインストールファイル（zip 圧縮）を任意のフォルダーに解凍します。
中にある「IP_Utility.exe」が IP Utility の実行ファイルです。

エンコーダーハードウェアマニュアル

IP Utility の起動方法

IP Utility は管理者として実行する必要があります。実行ファイル「IP_Utility.exe」を右クリックし、表示されるメニューの [管理者として実行] をクリックしてから、表示される画面で [はい] をクリックすると IP Utility が起動します。



一覧に表示されたエンコーダーモデルをすばやく確認できます。IP アドレスをクリックすると、アドレスバーに対象のエンコーダーの IP アドレスが入力された状態で PC のデフォルトブラウザが自動的に起動します。

エンコーダーハードウェアマニュアル

エンコーダーのデフォルト IP アドレスを使用：

所定のネットワークに DHCP サーバーがない場合、ユーザーは PC とエンコーダーの両方に手動で IP アドレスを割り当てて、PC とエンコーダーを同じネットワークセグメント内に設定する必要があります。

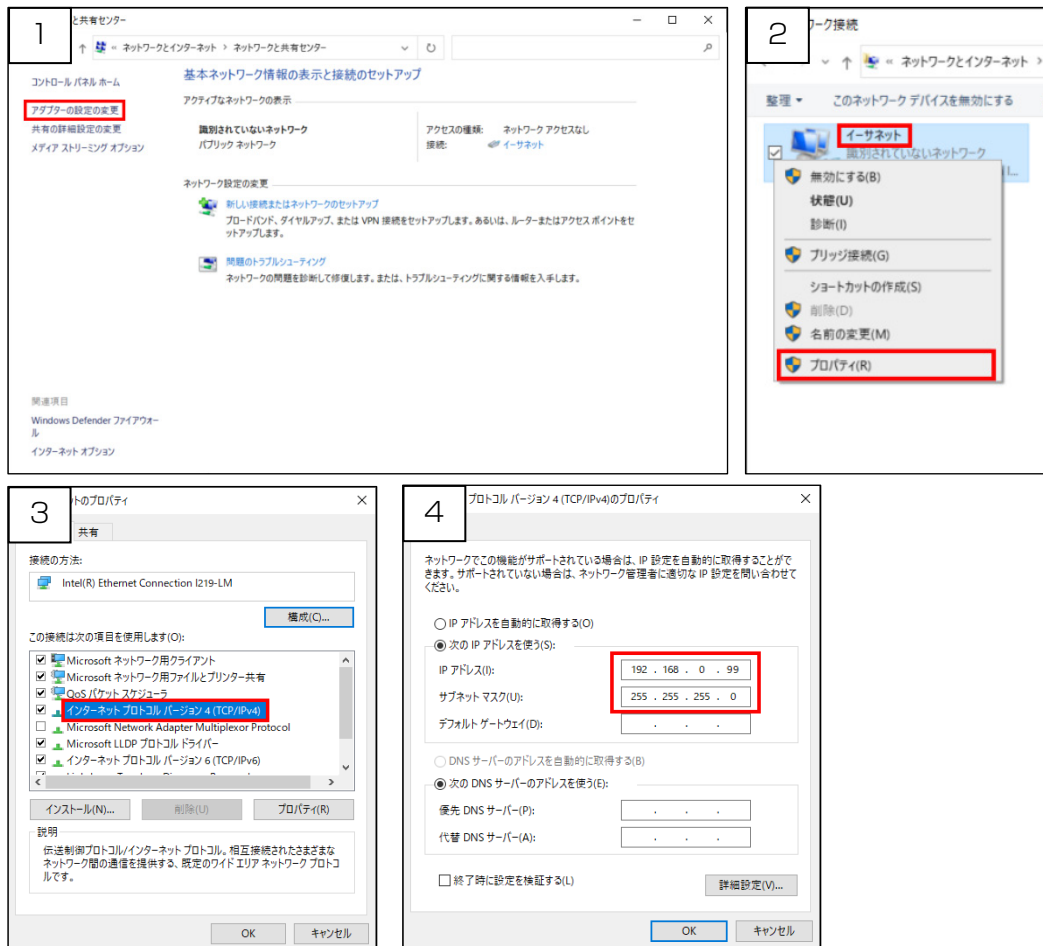
エンコーダーがネットワークに接続しており、DHCP サービスが検出されないときは、以下のデフォルトの IP アドレスが自動的に割り当てられます。

192.168.0.100

デフォルトのポート番号は 80 です。対象のエンコーダーにアクセスするためには、エンコーダーのネットワークセグメントに一致するよう PC の IP アドレスを設定する必要があります。

PC の IP アドレスの手動調整：

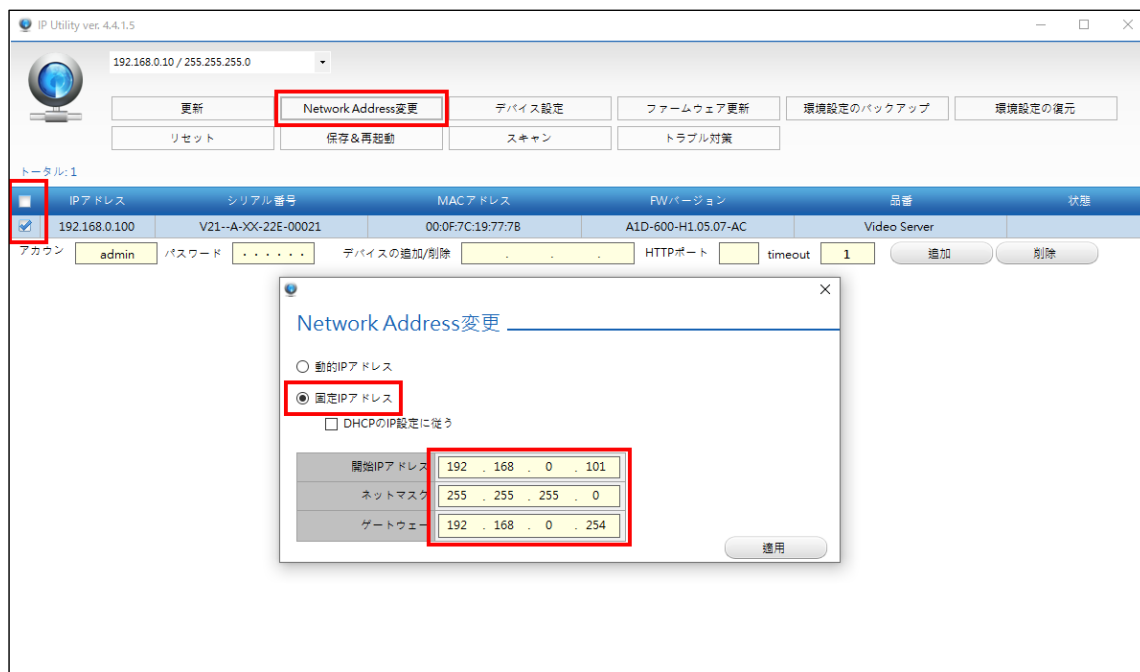
以下の例では、Windows 10 の画面を使って IP アドレスを **192.168.0.99**、サブネットマスクを **255.255.255.0** に設定しています。以下の番号順に操作してください。



エンコーダーハードウェアマニュアル

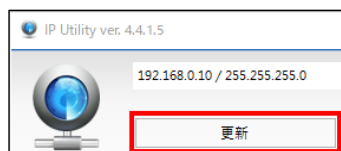
複数のエンコーダーの IP アドレスの手動調整：

同じ LAN 内で使用されるエンコーダーが複数存在し、固有の IP アドレスをそれぞれに割り当てる DHCP サーバーがない場合は、すべてのエンコーダーが初期 IP アドレス **192.168.0.100** になります。これはネットワーク機器に適した状況ではないので、すべての IP アドレスをそれぞれ別のものにする必要があります。IP Utility を使用すると、それぞれのエンコーダーに個別の IP アドレスをかんたんに設定できます。



上記の操作を実行すると、192.168.0.101 から始まる固有の IP アドレスがすべてのエンコーダーに順に割り当てられます。たとえば 20 個のエンコーダーを選択した場合、最後のエンコーダーに割り当てられる IP アドレスは 192.168.0.120 になります。

上記の操作をしてから IP Utility の [更新] ボタンをクリックすると、一覧が更新され、変更後のエンコーダーの IP アドレスが表示されます。



ウェブブラウザを使用して手動でエンコーダーの IP アドレスを変更することもできます。この場合、同じ IP アドレスを持つ 2 つのエンコーダーにウェブブラウザで同時にアクセスすると混乱するため、1 台ずつエンコーダーを接続して IP アドレスを変更してください。

エンコーダーへのアクセス

エンコーダーと PC が同じネットワークセグメント内にあり、両方に固有の IP アドレスが割り当ててある場合は、PC のウェブブラウザを使用してエンコーダーにアクセスできます。

本機には、Microsoft Edge を IE モードで起動してアクセスしてください。

Microsoft Edge の IE モードでの閲覧方法については、下記サイト内で該当する情報を参照してください。

URL: <https://japancs.i-pro.com/>

参照先：技術情報・サポート動画

Microsoft Edge (IE モード) を使用すると、ビデオストリームの管理用に ActiveX コントロールがエンコーダーから直接ダウンロードされます。ActiveX コントロールの使用について確認するメッセージが表示されたら、画面の指示に従い承認してください。この場合、他のサードパーティー製ユーティリティーはインストール不要です。

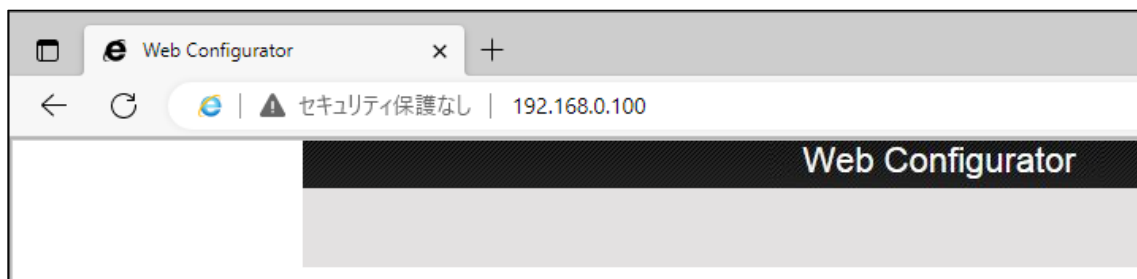
エンコーダーハードウェアマニュアル

エンコーダーのすべての機能を網羅するために、本書の以下の例は Microsoft Edge (IE モード) を基に作成しています。

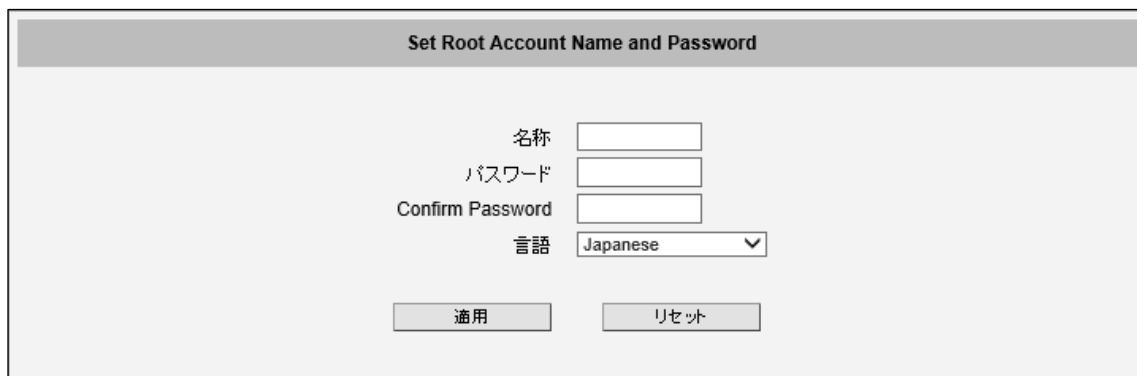
エンコーダーの IP アドレスを **192.168.0.100** とした場合は、ウェブブラウザを開き、ウェブブラウザのアドレスバーに以下のアドレスを入力することでエンコーダーにアクセスできます。

http://192.168.0.100

エンコーダーへの接続に成功すると、**Web Configurator** というユーザーインターフェースがログインページとともに表示されます。IP アドレスの後ろに HTTP ポート番号は追加されません。これは、エンコーダーのデフォルトの HTTP ポートが 80 番だからです (80 番は便宜上アドレスから省略できます)。



はじめてアクセスしたときは、Web Configurator にログインする前にエンコーダーの管理用のユーザーアカウント名とパスワードを設定する必要があります。

A screenshot of the 'Set Root Account Name and Password' configuration page. The page has a title bar with the text 'Set Root Account Name and Password'. Below the title bar, there are four input fields: '名称' (Name), 'パスワード' (Password), 'Confirm Password', and '言語' (Language). The '言語' field is a dropdown menu with 'Japanese' selected. At the bottom of the page, there are two buttons: '適用' (Apply) and 'リセット' (Reset).

ここで設定したアカウントとパスワードを使用して Web Configurator にログインしてから、エンコーダーの設定をしたり別のユーザーアカウントを追加します。